

第4学年 音楽科学習指導案	<h2 style="margin: 0;">歌詞の内容が伝わる歌い方を工夫しよう</h2> <p style="margin: 0;">日 時：平成25年11月〇日 指導者：広島市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇 児 童：第4学年〇組</p>
------------------	---

1 題材について

【題材の目標】

- 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うことができる。

【新学習指導要領】2内容A表現(1)イ

〔共通事項〕

(1) ア (7)

旋律 強弱

【教材】 「世界がひとつになるまで」 (松井五郎 作詞 馬飼野康二 作曲 原由多加 編曲)

【題材について】

本題材では、〔共通事項〕の中から旋律と強弱に焦点を当て、歌詞の意味や内容、曲想にふさわしい歌い方を工夫し、思いや意図をもって歌うことができるようにすることをねらいとしている。

教材として「世界がひとつになるまで」(松井五郎 作詞 馬飼野康二 作曲 原由多加 編曲)を取り上げる。親しみやすい旋律から児童が好む曲のひとつである。明るい印象から楽しんで元気よく歌う演奏を聴くこともあるが、一つ一つの言葉の意味するところや歌詞全体の内容を考えると、悲しい現状に負けず世界に平和が実現することを信じて明るい希望を持ち続けたいという願いの込められた歌である。

楽譜に示されている強弱記号と、歌詞や旋律とのかかわり合いを感じ取ることにより、歌詞の内容をより深く考え、表現に対する自分の明確な考えや願い、意図をもって歌い方を工夫することができる魅力的な教材であると考えます。

本題材を通して、児童が主体的に歌い方の工夫を考え、試行錯誤し、自分にとって価値のある新しい歌唱表現をつくり出し、こうとする意欲を高めることにつながりたいと考える。

【児童の実態】

児童はこれまで、クラスのレパートリー曲を増やしていく取組によって、毎日歌う習慣を付け、友達と声を合わせて歌う楽しさを味わってきている。

音楽の授業の導入部分で、毎時間一人一人の児童の歌声を聴き、肯定的な評価を繰り返してきたことで、歌うことに自信のない児童が喜んで歌うようになり、また、声域が狭いために音の高さの違いを感じ取って歌うことの難しい児童が、声域を広げ、正しいピッチで歌うことができるようになった例もある。

11月初めの校内音楽会では、観客を意識して歌声で思いを伝える学習に取り組んだ。その曲に込められた思いを考え、声量や声質や表情について教師のリードによって工夫して演奏することはできるようになってきた。

今の時点で身に付けている表現の技能を最大限に発揮しながら、こんなふうに歌いたいという思いをもち、それを歌声で実現するためにどんな歌い方の工夫をすればよいかを主体的に考えることを通して、表現の幅を広げていってほしいと願っている。

【指導に当たって】

○〔共通事項〕強弱について

強弱とは、音の大きさ、音量のような絶対的な数値で表されるものだけでなく、楽曲の各部分で相対的に感じられるものである。作曲者がなぜその記号をつけたのかを考えさせ、歌詞に込められた思いや旋律の流れとの関係を考えることによって、強弱が音色とかかわって、力強い音、優しい音などの音の質感を表すこともあることに気付くことができるようにしていきたい。

○ 思いや意図をもたせるために

この題材を設定するに当たって、児童がこの学習に向かう必然性をもつようにすることが大切であると考える。思いや意図をもって歌うことができるようにするために、この時期に国語科で学習している物語文「世界一美しいぼくの村」で考えたことや本校の研究内容である図書館を活用した学習と関連させて本教材の歌詞の内容を考え、この歌に込められた思いを聴いてもらう人に伝えたいという意欲を高めたい。

○ **言葉を大切にしたい音楽表現を目指すために**

歌い方の工夫を考えるとときに理由付けを大切にし、旋律や強弱、歌詞の内容からなぜそのように考えたのかを具体的に説明させるようにしたい。また、朗読から歌い方につなげ、意識したときとしないときの二つの言い方を比較して考えることで、言葉を大切に歌うことのよさに気づき、音色（声質）にもこだわって歌うことができるようにしたい。

○ **主体的に表現をつくりあげようとする**

考えた歌い方の工夫をみんなに提案し、歌って試しながら表現を練っていくという主体的な活動を通して、自分の考えたことが元になって表現が豊かなものになっていくことを実感させたい。そのために、自分の思いや意図が表現できるように繰り返し歌ったり、友達の表現を互いに聴き合ってそのよさを発見したりすることを大切にする。高学年になった児童が、次のフレーズをどんな歌い方で歌いたいかを自分で考えながら表現できる姿につながる学習にしたい。

2 学習指導計画

【既習事項】

- ① 時期 第4学年 10月
- ② 題材名 「美しい二部合唱をつくろう」
- ③ 題材の目標 旋律の重なりや声の響き合いを感じ取って合唱することができる。

(全5時間)

時	教材	学習活動 (○) 学習内容 (・)	具体的評価規準 (評価方法)
第1時	一 世 界 が ひ と つ に な る	○ 「世界がひとつになるまで」を歌い、曲の感じをつかむ。 ・ 主旋律 ・ 副次的旋律 ・ 歌詞の内容理解 ・ 二部合唱	【関心・意欲・態度】 歌詞の内容を理解して進んで歌っている。 (発言の内容・演奏の聴取)
第2時		○ 自分の好きな部分を選んで歌い方の工夫を考える。 (個人→グループ) <ul style="list-style-type: none"> アの部分 (初めから12小節まで) イの部分 (13小節から終わりまで) ・ 強弱と歌い方の工夫	【音楽表現の創意工夫】 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫するために、どのように歌うかについて、自分の思いをもっている。 (記述の内容)
第3・4時(本時)		○ 表現を試しながら、歌詞の内容が伝わる歌い方を工夫する。 ・ 旋律の流れと強弱のかかわり合い ・ 歌詞の内容と強弱のかかわり合い ・ 言葉を大切にしたい歌い方	【音楽表現の創意工夫】 旋律や強弱、歌詞の内容を関連させながら歌い方を工夫している。 (活動の観察、演奏の聴取、発言の内容)
第5時	ま で	○ 合唱の仕上げをする。 ・ 曲全体のまとめ	【表現の技能】 これまで工夫したことを生かして、自分の思いや意図をもって歌っている。 (演奏の聴取、記述の内容)

【これからの学習】

- ① 時期 第4学年 3月
- ② 題材名 「卒業式に向けて」
- ③ 題材の目標 呼吸の仕方に気を付けて、豊かな響きのある声で歌うことができる。

3 本時の目標（4／5時間）

- ☆ 旋律や強弱，歌詞の内容を関連させながら歌い方を工夫することができる。
- ★ 友達の発言や歌を聴いて，自分の歌い方を工夫することができる。

4 授業の視点

- ・ 児童が自分の言葉で歌い方の工夫を提案し，歌って試しながら表現を練っていくことは，思いや意図をもって歌うことに有効であったか。

5 本時の展開（4／5時間）

学習活動	教師の働きかけ(指示・説明・発問) 予想される児童の姿（・）	教師の支援（○） 個への支援（※）	評価（☆） かかわり合う力 （★） （評価方法）
1 「世界がひとつになるまで」を二部合唱する。	指 みんなで決めた「ア」の部分の歌い方に気を付けて「世界がひとつになるまで」を二部合唱しましょう。	※ 姿勢，発声，口の形，表情など歌唱の基礎の力と，前時までの学習を生かそうとしているかを個別に見取り，意欲を高める。	
2 今日の意味を確認する。	歌詞のもつ意味が伝わる歌い方を工夫しよう。		
3 「イ」の部分の表現を工夫する。	指 「イ」の部分考えたグループが歌い方の工夫を提案し，歌って試しながら歌詞の内容が伝わる歌い方にしていきます。 ・「fは，強く歌うところですが，あたたかいほほえみと歌詞にあるので，荒っぽい声で歌わずに，やさしくて大きな声で歌ってください。」 ・「夢が本当になるからと歌詞にあるように，願いが込められているので，弱く歌うのではなく，心の中で願いながら，言葉を大切に歌ってください。」 ・「デクレッシェンドのところは，せん律がだんだん下がっているの，だんだん小さくしてください。」 その他に工夫したいことを出し合います。 ・「『ずっと』という言葉に，いつまでもという願いを込めて大切に歌ってください。」	○ 工夫するポイント ・ 旋律の流れと強弱のかかわり ・ 歌詞の内容と強弱のかかわり ・ 言葉を大切にされた歌い方 ○ 提案した思いが表現されているかどうかを吟味しながら進めるために，提案したグループは学級の演奏を聴いて考え，納得のいくまで表現を練る。 ○ 強弱は，音量だけでなく音色とかかわって音の質感を表わすことに気付くことができるようにする。 ○ 歌詞の言葉一つ一つの意味や歌詞の表す内容を伝えるための発音の仕方の工夫に気付くことができるようにする。	
4 歌詞の内容が伝わる歌になって歌を聴き合う。	発 みんなで考えた工夫を生かして「イ」の部分の歌を聴き合います。前よりよくなったことを見つけましょう。 ・「『あたたかいほほえみ』の歌い方がやさしくなりました。」 ・「願っているように歌っていました。」	○ 二つに分かれて聴き合うことで，工夫して歌うことの良さに気付くことができるようにする。 ○ 児童の発言を整理しながら板書する。	児童が思いや意図をもつことができるようにするための支援

<p>5 感じ取ったよさや美しさを生かして二部合唱する。</p>	<p>指</p>	<p>最後にみんなで1, 2番を通して歌いましょう。</p>	<p>○ 拡大楽譜に書き込んだ工夫点を見て、意識して歌うように促す。 ※ 個別に聴いて回り、意識していることを見取る。小さな変化も見取って評価する。 ※ 一つでも意識して歌うことができるように声かけをする。</p>	<p>☆ 旋律や強弱、歌詞の内容を関連させながら歌い方を工夫している。 【音楽表現の創意工夫】 (活動の観察) (演奏の聴取) (発言の内容) ★ 友達の歌を聞いて自分の歌い方を工夫している。 (記述の内容)</p>
<p>6 次時の学習について知る。</p>	<p>指</p>	<p>今日の学習について、振り返りカードに書きましょう。</p>	<p>友達が提案した工夫点を意識して歌い方を工夫しているか。 (表情、口の開け方、目線、言葉の発音の仕方、音色などの変容を見取る)</p>	
	<p>説</p>	<p>次の時間は、合唱の仕上げをしましょう。</p>		

6 本時の評価規準

<p>学習活動における具体的評価規準</p>	<p>【音楽表現の創意工夫】 ☆ 旋律や強弱、歌詞の内容を関連させながら歌い方を工夫している。</p>
<p>具体的な評価の方法</p>	<p>歌っている時の表情の観察や演奏の聴取、発言の内容により判断する。</p>
<p>Aと判断する場合の例</p>	<p>〈Aと判断するキーワード〉 ◇ 考えたことを歌声で実現するための具体的な歌い方の工夫 ・ mpは、弱々しくするのではなく、お腹に力を入れて大切に歌いたい。 ・ 言葉の初めははっきりと発音し、語尾はやさしく歌いたい。 ◇ 音色(声質)の変容 ◇ 次のフレーズを歌う前に自分で意識をもった歌い方</p>
<p>Cと判断する児童への働きかけ</p>	<p>二つに分かれて聴き合うときに、友達の歌い方のよさを見つけ、それを取り入れてみることを勧める。 たくさんのことを意識することが難しい児童には、取り入れてみることを一つ意識して歌うように促す。</p>

7 板書計画

<p>めあて 歌詞のもつ意味が伝わる歌い方を工夫しよう。</p>		
<p>◎工夫するポイント</p> <p>せん律の流れと強弱</p> <p>歌詞の内容と強弱</p> <p>言葉を大切にしたい歌い方</p>	<p>拡大楽譜</p> <p>(児童が考えた工夫の書き込み)</p>	<p>工夫をしてよかったこと</p>